

wellvoice

たちかわ市民討議会

「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」

(2007年2月4日実施)

報告書



社団法人立川青年会議所
きづく・たちかわ委員会

もくじ

はじめに	1
市民討議会とは	2
市民討議会の特徴	2
開催までの経緯	3
運営の結果	4
開催前の準備	4
開催当日	
テーマ討議の実施結果と考察	10
実施後の評価と今後の課題	14
参加者のアンケートから	14
実施後の評価と課題	15
まとめ	17
感想	18
謝辞	19
資料編	21

“wellvoice” の名称について

市民討議会に対する知名度や内容に対する認知度がまだまだ低い現在、「公開討論会」や「市民会議」などとの区別が付かず、浸透させる上での障害となるのではとの考えから、愛称をつけようという声があがりました。いくつかの案から、最終的に「wellvoice」の名称が選ばれました。

① “well(申し分なく)” と “voice(声)” を合わせた造語としての「よりよい声」として、② “well” のもう一つの意味である「井戸」にかけ、「井戸端会議」のように気軽に活発に意見を出し合えるような討議体としたい、との思いから命名しました。

はじめに

各地の自治体において「住民との連携」をキーワードに、さまざまな市民参画への試みが行われておりますが、その手法の多くは、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べるのは関係者や専門家などの特定の市民であることがほとんどではないでしょうか。

この為、さまざまな問題意識をもちながらも、普段住民票の交付行政との接点が少なく、実際には各々地域行政への取り組みに積極的に参画するまでには至らない多くの市民にとって、行政に参画する可能性は限られているのが現状です。このような皆さんを「受け手」のままにせず、もっと多くの市民の豊かな知恵と経験を引き出し行政に反映させることは、幅広く多様な市民に対応した行政サービスの提供を可能とし、それを市民が実感し参画意欲をさらに高めていく上で、重要なことと考えております。

「wellvoice たちかわ市民討議会」は、そんな市民の社会参画を目指す新たな試みです。この事業は、無作為に選出し選ばれた市民により、地域や社会の問題について討議をし、得られた合意を

行政・地域に提言していくものです。地域の課題などに対して「普通」の市民が抱く意識を広くくみとり、さらに地域社会への参画へと導く機会として、この市民討議会を多様な市民参画方法の一つとして、提案、実施していきたいと考えております。

今後も「wellvoice たちかわ市民討議会」を継続して開催し、行政や他団体との協働も視野に入れながら、よりこのまちに適した「たちかわスタイル」の市民参画・地域課題の解決ツールとして発展させていきたいと考えております。ぜひとも皆様には、今後ともご理解を賜り、共にこの「wellvoice たちかわ市民討議会」を新しい社会のしくみとして確立できるよう、よろしく願い申し上げます。

社団法人 立川青年会議所
きづく・たちかわ委員会 委員長
金子 幹広

市民討議会とは

地方分権の進む昨今、国や地方自治体でつくられる計画や条例などにおいて、市民の意見を取り入れる機会が増えてきました。

しかしその手法は、公募型の審議会や委員会などが主であり、そこで意見を述べているのは関係者や専門家などの特定の市民であるのが実状です。

個人の行政参画意識の高いドイツには「プランクスツェレ (Planungszelle)」と呼ばれる市民参画のシステムがあり、利害が複雑に絡む地域問題の解決などに大きな効果をもたらしています。解決しなければならない問題などを様々な視点から複数のテーマに分け、無作為に選ばれた市民や地域の住民がテーマごとに専門家などの意見を聞いた上で討議を行い、結論を導き、メディアなどを通じて発表していくものです。

市民討議会は、この「プランクスツェレ」を日本版にアレンジし、社会に定着させるための試みです。地域や社会が抱える問題を市民や地域住民が共有して考えるきっかけとなり、地域社会の再生の足がかりになるものと私たちは確信しております。

社団法人立川青年会議所では、より多く、幅広く市民のみなさんのご意見を伺う市民参画の方法として、「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催し、社会に定着させていきたいと考えております。

市民討議会の特徴

(1) 参加者の無作為抽出

市民の中から無作為に抽出された一定数（未成年者を除く）に開催の案内状をお送りし、参加者を募ります。

(2) 参加者への有償性

多くの市民参加型事業とは異なり、討議会への参加者には日当・食事が支給されます。これはドイツのプランクスツェレと同様、金銭を支給

することにより参加者に「責任ある仕事」として取り組んでもらう点に重きをおいています。

(3) 専門家による情報提供

討議の開始に先立ち、テーマに関する専門的知識をもった関係者を招き、参加者への情報提供を行います。情報の操作性をさげ、異なった意見を聞けるよう複数からの意見を伺います。

(4) 討議・発表・投票

情報提供後、おおむね5人を1グループとした討議を行います。立川青年会議所では案内を受けた方の誰でも参加がしやすく、かつ市民討議会のしくみを知ってもらうために、75～90分の討議を1コマとし、午前・午後各1コマ、1日間の開催としています（プランクスツェレの場合は90分の討議を1コマとして1日4コマ、4日間にわたり行い、提言にまとめています）。

討議後にグループ単位による意見を発表した後、参加者全員による意見への投票を行います。賛同できる意見であれば他グループへの投票もできます。

(5) 市民報告書の発表

討議・投票の結果をもとに意見の集約を行い、市民・行政機関・マスコミなどを通して提出公表を行います。

開催までの経緯

2005年

(1) 東京青年会議所における開催

2005年7月に、社団法人東京青年会議所千代田区委員会の主催により、国内初の「市民討議会」が開催されました。「市民で形づくる行政－社会的支援すべき市民活動の課税問題」をテーマに2日間にわたり討議を行いました。

2006年

(1) 3青年会議所合同事業の開催

4月に、財団法人日本青年館ホールにて、社団法人東京青年会議所、社団法人町田青年会議所との3青年会議所共催による合同事業「市民の声が“かたち”になる、新しい社会のしくみ」を開催しました。市民の社会参画の必要性、過去における参画の方法論についての『模擬討論会』を行い、市民の社会参画の必要性と市民討議会という手法の有効性を説くとともに、3青年会議所理事長によるパネルディスカッションを実施し、今後の市民討議会の開催、地域への浸透を目指した共同宣言を採択しました。

これを受け、立川青年会議所では実施に向けた本格的検討に着手しました。

(2) wellvoice たちかわ市民討議会の開催

2006年度ゆめ かなえる委員会（矢澤貴光委員長）担当のもと、8月5日に立川市女性総合センターアイムにて多摩多摩地域では初の試みとなる「wellvoice たちかわ市民討議会」を開催しました。市内地番からの500世帯抽出・ポスティングによる参加者募集を行い、当日12名の参加により「市議会と市民の関わり」をテーマとする討議を行いました。

情報提供者として三葛敦志氏（国分寺市議会議員）、伊藤伸氏（構想日本 政策スタッフ）を招き、市議の立場からみた議会の姿や各国の地方議

会のしくみや報酬などについて説明をいただきました。また、立川市より企画政策課、議会事務局も傍聴に訪れました。

参加者の皆さんは初対面にもかかわらず、開始直後から積極的な意見を交わし、発表・投票を経て、「議会に関する情報をもっと積極的に公開べき」「議員・議会と市民の接点を増やす」などの意見傾向が得られました。

討議・運営の結果は『wellvoice たちかわ市民討議会 実施報告書』として立川市議会議員および議会事務局、立川市役所担当各課、マスコミ等に配布し提言を行いました。

2007年

上記の結果を受け、立川青年会議所では市民の社会参画を促す手法のひとつとして、事業運営全般を今年度の「きづく・たちかわ委員会」に引き継ぎ、今年度も市民討議会を開催し、制度の認知と充実を図ることとなりました。今回の開催はこれを受けたものであり、立川では2度目の開催となります。

運営の結果

開催前の準備

■広報

事業PRとして、A4二つ折り両面刷りのリーフレットならびにA4両面カラーのチラシを制作しました。



案内チラシ

(1) チラシの配布

チラシは会場となる立川市女性総合センターアイムをはじめ、市内公共施設（連絡所・公民館等）への配置を行いました。また、社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（会長・永井和之中央大学総長）に依頼し、立川活動拠点 AGORA 立川（柴崎町）にチラシを配置し、近隣地域の学生に対して「市民討議会」というしくみへの周知を図りました。

(2) ホームページ

立川青年会議所のホームページ（<http://www.tachikawajc.or.jp/>）に市民討議会に関するサイ

トを開設し、事業ならびに昨年8月の開催報告を掲載しました。

(3) 駅前大型ビジョン

15秒のスポットCMを制作し、立川シティビジョン株式会社のご厚意のもと、1月9日より2月4日の間、おおむね1時間に6回の割合で立川駅北口大型ビジョンにて放映しました。

(4) 新聞記事

1月31日に立川市役所記者クラブにて記者会見を行い、東京新聞2月3日付朝刊地方面ならびに産経新聞2月4日付地方面に開催に関する記事が掲載されました。

(5) その他

先述の社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩に依頼し、法人のメーリングリストにて事業を紹介していただきました。

■無作為抽出による参加者募集

(1) 住民基本台帳からの抽出

2005・2006年度に東京青年会議所千代田区委員会で開催された「市民討議会」や、昨年三鷹市において行政が中心となり開催された「みたがまちづくりディスカッション」においては、無作為抽出の手段として住民基本台帳が利用されました。立川においても昨年来の企画段階より、抽出における台帳の利用が検討されました。しかしながら昨今の個人情報保護に関する諸問題から住民基本台帳の閲覧に対する制限が強化され、行政との打ち合わせでも「市民討議会に対する認知度が低い現段階においては、台帳利用に対して市民の理解を得るのは難しいんで」との見解もあり、前回に続き見送られることとなりました。

(2) 地番からの世帯単位による抽出

このため、前回同様も市内の各町丁から無作為に選び、当該世帯に直接案内状をポストイングする方法をとることとし、以下の方法により、市内地番からの無作為抽出を実施しました。この方法

は厳密には完全な無作為抽出とはいえませんが、
号数の指定にもランダムで数字をあてるなど、極
力恣意性を排除するよう心がけました。

- 抽出対象 緑町・泉町を除く立川市域
- 募集対象 市内在住の18歳以上の男女
- 抽出数

1次募集	500世帯
2次募集	700世帯
計	1,200世帯
- 対象者の抽出

母集団	1次募集	市内の全世帯
	2次募集	富士見・柴崎・錦・羽衣・曙・高松町の全世帯
地点数	1次募集	500
	2次募集	700
抽出法	層別二段無作為抽出 (層別→地点抽出→対象世帯抽出)	
層別	市内の町丁を単位として層化	
	1次募集	79地区
	2次募集	28地区

地点数配分

各地区内の世帯数に応じて
発生確率を比例配分

対象者抽出

各地番にランダムで号数の末尾
1桁を選定(例:9の場合は9号、
19号、29号…のいずれか)

表1 市内各町の抽出ならびに出席回答数

町名	世帯数*1	抽出数	出席返答
富士見町	9,020	246	1
柴崎町	4,572	128	2*4
錦町	7,950	216	1
羽衣町	5,051	118	5
曙町	4,986	115	0
高松町	5,120	122	0
緑町*2	1,260	-	-
栄町	5,436	39	1
若葉町	5,277	47	0
幸町	5,696	44	1
柏町	3,894	29	0
泉町*2	332	-	-
砂川町	5,974	31	0
上砂町*3	4,303	24	0
一番町	5,506	29	0
西砂町	2,793	12	0
計	77,170	1,200	11

*1 世帯数は2006年1月1日現在(立川市サイトより)

*2 公務員官舎等投函が困難な住戸が多く、抽出より除外

*3 上砂町6・7丁目については人口0につき除外

*4 うち1名は当日欠席

(3) ポスティング

ポスティングには以下の資料を同封しました。

- ・紹介リーフレット
- ・当日案内チラシ
- ・テーマ説明
- ・補足資料「ご案内を読んだ後に」
- ・過去の新聞記事抜粋
- ・立川青年会議所のご紹介
- ・返信用ハガキ

ポスティング作業はきづく・たちかわ委員会をはじめ青年会議所メンバーにて分担し、1月9～15日(1次募集)、24～27日(2次募集)にかけて実施しました。事前に住宅地図を用いて確認の上投函を行いましたが、当該地番が空家・空地となっていた場合は、末尾が等しい号数の民家、もしくは近隣の号数・番地への投函にて対応しました。



ポスティング資料

■参加者

第1次ポスティング（500世帯）では3名の参加に留まったため、追加ポスティング（第2次・700世帯）を行った結果、合計で計11名より出席の回答をいただきました。このうち、当日1名が急用により欠席、最終的に10名にて討議を実施しました。

表2 参加者一覧

男性 (42)	富士見町
男性 (58)	柴崎町
男性 (52)	錦町
女性 (52)	羽衣町
男性 (63)	羽衣町
男性 (74)	羽衣町
女性 (62)	羽衣町
女性 (69)	羽衣町
男性 (35)	栄町
男性 (65)	幸町

開催当日

2007年2月4日、立川市女性総合センターアーム和室にて、「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をテーマに、様々な角度からの情報提供を得た上で議論を行いました。

■会場

通常の会議ではテーブルに椅子という形式が一般的ですが、「より気軽に話しやすい雰囲気のできるのではないかと前回開催同様、討議会場として和室を利用しました。



討議会場

■傍聴室の設置

傍聴に訪れた来場者に①「無作為抽出者による討議」という形式が事前の告知チラシ等で十分に理解されるか、②自由に意見を述べるフォーラム等と混同した来場者による、会議場内での不用意な発言などをさけるため、前回開催時と同様別室で傍聴室を設置しました。本会場には無作為抽出による参加者、運営スタッフ以外の入室は事前の承諾を得るものとし、傍聴室でのモニタリングを原則としました。

各グループの討議の様子がわかるよう、DVビデオカメラを各グループのテーブル横に配置し、隣室（第1学習室）にて来場者が討議の様子や内容を理解できるように配慮しました。



傍聴室のようす

■運営人数

当日の運営は統括責任者以下、司会進行1名、参加者受付2名、傍聴者受付2名、カメラ操作1名、傍聴室3名の計10名にて実施しました。

■討議のグループ分け

今回は討議の単位として、3ないし4名×3グループにランダムに分け、午前のDISCUSSION 1では先着受付順にA・B・Cグループの順に分け、討議を行いました。また、午後のDISCUSSION 2では討議開始前に、再度くじ引きを行い、A・B・Cグループの3グループを決定しました。

タイムスケジュール

10:00	開会 ご挨拶・ご説明
	情報提供 立川市企画政策課 浅見 知明氏 (社)立川青年会議所 矢澤 貴光 補足説明
11:00	DISCUSSION 1 討議 駅前デッキをめぐる現状
12:00	発表・投票
13:00	昼食・休憩
14:00	DISCUSSION 2 討議 今後の駅周囲の発展と理想形
15:00	発表・投票 Aグループ Bグループ Cグループ
	アンケート
16:00	総評・謝辞 閉会
17:00	

■タイムスケジュール

午前・午後とも討議 75 分、発表 10 分×3 グループ、投票 15 分にて行いました。前回（8 月）の開催において、遅延が発生した反省から、開始時に討議の進め方、発表・投票の流れに関するガイダンスを行い、スムーズな進行ができるよう配慮しました。【前ページ図】

■情報提供・専門家への質疑

今回の情報提供は午前午後に分けず、開始冒頭に一括して実施しました。浅見知明氏（立川市企画政策課主査）、矢澤貴光副理事長（2006 年度ゆめ かなえる委員会委員長）による説明を行い、金子幹広委員長よりその他添付資料資料の補足を行いました。

情報提供終了後、若干の質疑時間を設定しました。質疑の内容については、説明の中での不明瞭な部分に関する質問のみにとどめました。

なお討議開始後も情報提供者は引き続き会場にとどまり傍聴するとともに、必要に応じ参加者からの個別質問に対する補足等を行いました。



情報提供者による説明

■事前の自己紹介

前回と同様、名札の着用と互いに「～さん」付けで呼び合うとの事前ルールの説明のみですぐに討議に入りました。

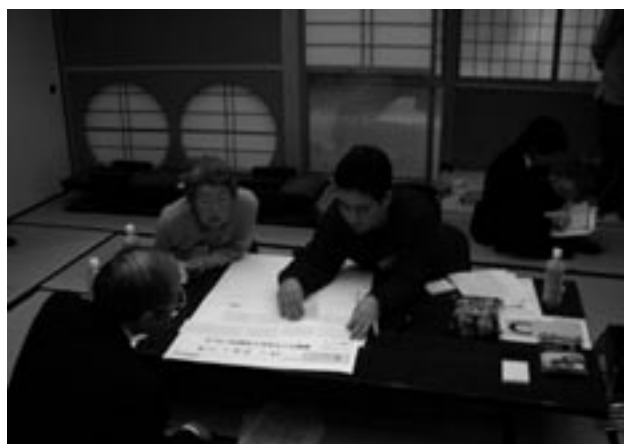
各グループとも討議冒頭より積極的な意見が飛び交い、初対面に関係なく事前の趣旨・要領説明

で対応できました。

■討議形態

討議の間、グループごとのファシリテータはあらかじめ指名しましたが、討議を通してテーブルにはつかず、情報提供者への取り次ぎ、その他討議運営上の補足等の対応を行いました。

グループごとに大判の付箋紙を用いて、意見を出し合い討議の上、意見を最大 4 つに集約しました。また「残したい意見」（付帯意見）として用紙下部に記入欄を設け、より多彩な意見を表明できるようにしました。



討議のようす

■討議結果の発表

各グループにて、討議で表出された意見をあらかじめ準備した A0 判の用紙にサインペンで書き、室内中央に設置したホワイトボードに掲示の上、グループ単位で意見発表を行いました。発表は 1 グループ 5 ～ 10 分で、各グループから代表者が掲示板前に立ち、行いました。



グループ単位での発表

■投票

各グループの発表後、参加者 10 名による投票を実施しました。1つの課題に対してひとりあたり 5 票をもち、各グループより発表された意見に対する賛成票を投じました。



参加者による投票

テーマ討議の実施結果と考察

テーマ設定の背景

今回の市民討議会のテーマとして「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」をとりあげました。

立川駅周囲を南北に伸びるペDESTリアンデッキは通勤通学や乗り換え、買い物客など多くの人が利用しているほか、楽器演奏やパフォーマンスなどの姿も多く見かけられるようになりました。通行人が演奏などを楽しむ姿が見られる一方、大音量化や通行上の障害などの問題も指摘され、賛否双方より声が上がっています。デッキは法律上道路に該当し、利用には市と警察双方の許可が必要とされます。しかし現実には許可の取得は難しく、無許可のまま、路上演奏をはじめとした活動が行われているのが現状です。

昨年7月、立川青年会議所ではデッキの現状を考え、その未来像を描いてみようとして「TACHIKAWA デッキパラダイス（デッパラ）」を企画し、ミニライブの開催を通して、アンケートを実施しました。路上演奏等に対して一定の理解を示しながらも、無許可による違法行為に対する明確な賛意は出しかねるといった、「文化振興」と「遵法」の間で揺れる意識が浮かび上がりました。

他地域においては行政と市民の協働から自主的ルールでの運営するなどの動きも見られる中、立川市民の皆さんはデッキの現状とこれからについて、どのように感じているのか？ また、新改札の設置・複合ビルの建設など、改良工事が進められ、新たな開発も計画される中、さらなる発展が見込まれる駅周辺の現状と未来はどうあるべきか？

このような思いから、無作為に選ばれた市民の皆さんの率直な意見をお聞きしたいと思い、今回の討議テーマとして設定しました。

情報提供者・資料提供について

情報提供者として、立川市企画政策課より浅見知明主査を招き、立川市文化芸術のまちづくり条例、立川ストリート市民会議（立川まちおん）が2004年に実施したストリート演奏に関するアンケート結果、新聞記事の紹介、関連法規および駅北口西地区再開発事業に関する説明を受けました。

続いて当会議所副理事長の矢澤貴光（2006年度ゆめかなえる委員会委員長）より、昨年7月に伊勢丹立川店前にて開催した「デッパラささやかライブ」におけるアンケート結果の報告を行いました。

また、立川警察署交通課および早稲田大学理工学部浅野研究室より提供いただいた資料を用い、金子委員長より補足説明を行いました。

得られた意見の傾向について

午前・午後にわたる討議の結果、次ページ以降に示す意見傾向を示します。これらの傾向が導かれるまでに、午前10名、午後9名の立川市民は2つの課題について同様に議論し、意見発表を行いました。

なお、午前の討議終了の段階で1名が所用のため途中退出したため、午後より参加者了承のもと、宮本直樹氏（立川市まちづくり政策協働研究会市民研究員）がオープン参加として加わりました。

次ページ以降に、両課題における参加者の意見傾向を報告いたします。なお票数は10名が各5票を投票するしくみのため、各課題について50票中の票数となります。

DISCUSSION 1

駅前デッキをめぐる現状について

現在デッキ上で行われている路上演奏やパフォーマンスは、実際には行政の許可を得ておらず、「違法」のまま行われている一方、現実にはある程度は黙認されているという、「あいまい」な状態が続いています。各々文化振興・順法などの立場から、平行線をたどったままの状態が続く背景としては、さまざまな理由が考えられると思います。こうした現状の解消について、短期・中期的な視点からどのようなアイデアが考えられるでしょうか？

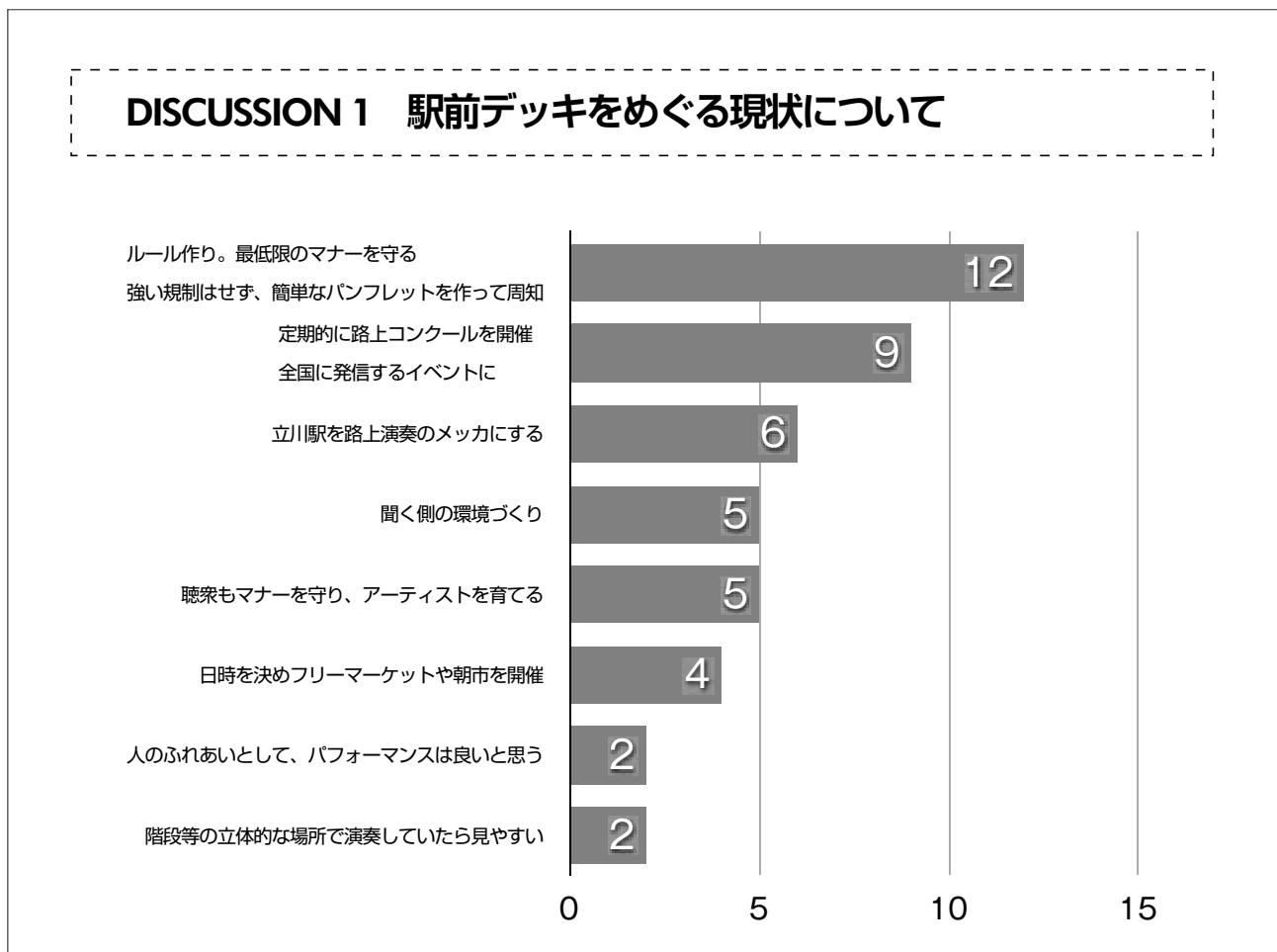
【結果】

討議・発表からは大きく2つの方向性が認められました。1つは路上演奏・パフォーマンスに対するマナー向上、もう1つはまちの特色としての位置づけです。

マナーについての意見は3つのグループすべてから発表があり、路上演奏に対する何らかのルールづくりの必要性に票が集まりました。内容については「簡単なパンフレットによる周知」など、あまり強い規制はせずにマナーやモラルの向上を図っていくべきとの意見が占めました。同時に「アーティストを育てる」という観点から、聴く側もマナーを守るべき（5票）など、双方の意識の向上の必要性が挙げられています。

また、「定期的に路上パフォーマンスのコンクールやコンペを開催、全国に発信していくイベントに」（9票）「立川駅を路上演奏のメッカにする」（6票）など、まちの特色として積極的にアピールすべきという意見にも支持が集まりました。路上演奏以外には「日時を決めフリーマーケットや朝市を開催」（4票）や、「朝市やパフォーマンスを立川名物に」（残しておきたい意見）などが挙げられました。

このほか、「20～30分聴ける環境を」「階段



等立体的な場所で演奏したら見やすい」など、聴く側の環境に関する意見にも集まりました。

【考察】

「人のふれあいとして、パフォーマンスは良いと思う」という意見のように、今回無作為抽出から集まった参加者の討議においては、演奏行為に対する否定的な見解はほとんどみられず、人と人の交流や文化振興の観点から、路上演奏に対する一定の理解が示されていると考えられました。その一方で「現金回収は感心しない」「商行為は規制すべき」など、金銭授受が関わる行為に対する厳しい意見も寄せられています。

マナーについては、過去にも聴衆が点字ブロック上をふさぎ、視力障害者の通行の妨げとなったケースもあるなど、演奏者だけでなく聴衆も含めた上での対策が必要なのではないかと思われれます。路上演奏に関わる人を (a) 演奏者 (b) 特定の演奏者に対する特定の聴衆 (ファン) (c) 路上演奏そのものを楽しむ聴衆 (リスナー) (d) 道すがらに足を止める聴衆、の 4 つのタイプに分けた場合、演奏者自身のマナー・モラル意識は言うまでもありませんが、(b) や (c) のような比較的路上演奏に関心の高い層から「自分たちもアーティストや文化、まちを育てている」という意識や、まちの文化としてよりよいものにするために、マナーやモラルへの関心を高めていくことが、今後重要となるのではないかと考えられました。

他方、「まちの特色としてアピールする」意見に票が集まりましたが、裏返せば「立川といえば○○」と即座に思いつくような独自性のあるイベントや文化が浮かばないという、まちの現状を示したものとも考えられます。先般開催された立川市まちづくり政策協働研究事業における中間報告(2007年2月19日、アイムホール)においても、交通の結節点という「地の利」から得られた地域における中心性を今後も継続していく上で、「立川にしかない独自性」「立川ブランドの確立」の必要性が指摘されています。モノレール開通、商

業施設の相次ぐ進出など、急速に発展した「ハード」に対し、いかに「ソフト」が追いついていくかという課題が浮かびました。

DISCUSSION 2

今後の駅前デッキの展開とその理想形

現在 JR 立川駅の改良工事が進められ、工事終了後は新たな南北連絡通路や、駅西側区画を中心とする再開発が計画されています。

DISCUSSION 1 における討議結果もふまえ、魅力あるまちづくりの観点から、どのような整備のあり方、デッキの姿が望ましいと考えられますか？

【結果】

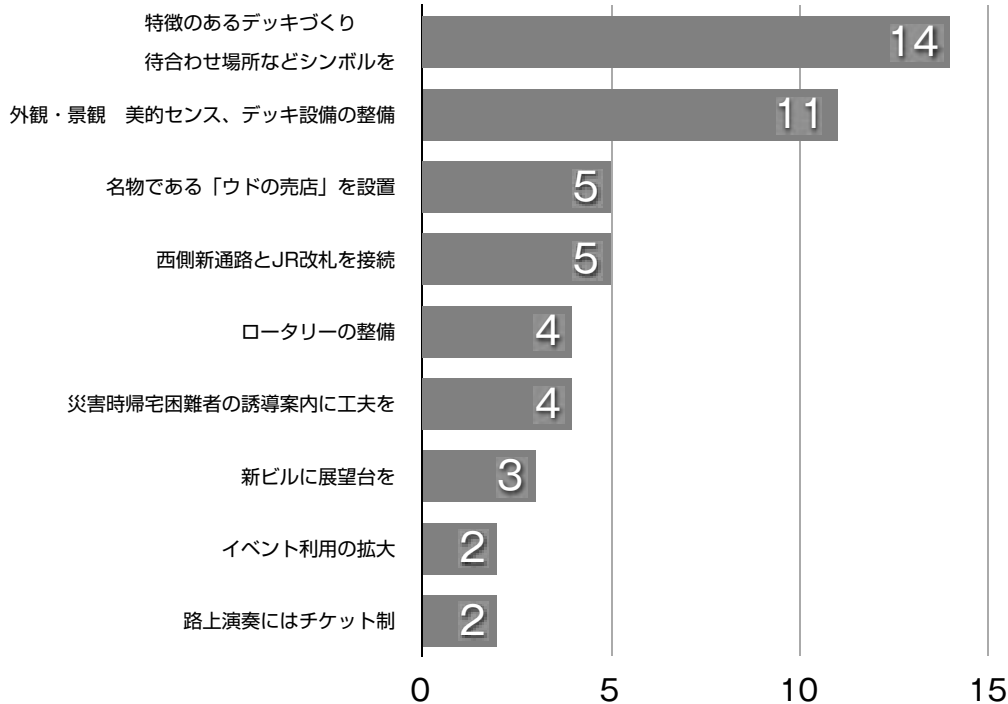
午前の結果をふまえて行われた今後の駅前デッキの姿に関する議論では、「立川らしい特徴」を求める意見に半数を超える支持が集まりました。中でも待ち合わせ場所となるような立川らしい「シンボル」の設置を求める声については3グループすべてから意見が挙がり、14票を集めました。また、床面やガードなど設備面に対する「明るさ」「清潔さ」「美的センス」(11票)、「名産品であるウドの売店を設置」(5票)など、画一的でない立川ならではの特色あるデッキづくりに対する要望の高さがうかがえました。

上記以外の整備に対する意見として、駅周辺における交通渋滞の現状を背景とした「デッキ下ロータリーの整備」(4票)、「災害発生時における帰宅困難者への誘導案内の工夫」(4票)などに票が集まりました。また、残したい意見としては「小規模美術館(アートスペース)の設置」、「各金融機関ごとのATMをデッキ上の一箇所に集中して設置」「まちの案内人(駅前コンシェルジュ)の配置」などが挙げられました。

【考察】

東京駅の「銀の鈴」や渋谷駅の「ハチ公」「モ

DISCUSSION 2 今後の駅前デッキの展開とその理想形



ヤイ像」など、誰でも説明できるような明確なシンボルとしての場所が、現在の駅デッキ周辺には存在しません。このため、市外から人が集まるケースなどにおいては駅周辺の待ち合わせ場所として「JR 駅の改札を出たところ」と答えるケースが多くを占めるのではないかと考えられ、結果として南北通路の中央を待ち合わせの人々がふさいでしまい、通路の混雑度を高める原因の一つとなっていることが考えられます。

また、意見集約の過程では「オブジェを並べてファーレ立川までつなげる」との意見もみられました。駅北側に位置するファーレ地区には国内外のアーティストによるパブリック・アート 109 点が設置され、「アートの街」として、これまでも各方面において取り上げられています。しかし駅前ではこれらを明確に示す案内はないため、事前知識もなく買い物等で立川を訪れた人はこれらのアート群を知る機会は限られており、地域がもつせっかくの文化資産として十分に活かされて

いるとは言い難いのではないかと考えられます。

ファーレ地区への誘導となるアート作品を駅前の「シンボル」として駅周囲のデッキに設置し待ち合わせ等の用途に供することで、混雑の緩和を図るとともに、他地域からの来訪者に対しファーレのアート群や「アートのまち立川」の知名度を高める好機となりうるのではないかと考えられます。

また、投票の結果や「植栽などの緑地の拡充」「通路としてだけでなく途中で休めるような場所を」などの付帯意見も総合すると、デッキには交通を目的とするだけではなく、市内外の人々による交流の「結節点」としての機能が求められているという傾向が浮かび上がりました。

実施後の評価と今後の課題

参加者のアンケートから

市民討議会終了後、参加者 10 名のうち 9 名を対象にアンケート調査を実施しました。24 項目について質問を行い、以下にその分析結果を示しました。

(1) 無作為抽出の印象

質問 1「市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか？」に対し、7 名が「まじめな案内だと思った」と回答し、参加者からは一定の信用をもって迎えられたようです。昨年からの新聞記事や案内送付の経緯等を同封したことも効果があったと考えられました。

質問 8「次回『市民討議会参加の案内が届いた場合はどうしますか？』の問いには「日程があればぜひ参加したい」(5 名)「テーマによって参加したい」(4 名)と答えました。参加者からは好感触をいただいたと同時に、取り上げるテーマが参加数を大きく左右する可能性も示唆されました。

(2) 討議の進め方

質問 9「情報提供者についてはいかがでしたか？」に対し、6 名が説明がわかりやすく参考になったと回答し、概ね評価されたと考えます。一方で今回は資料が多いという意見も多く挙げられており、限られた討議時間に応じた資料の準備の必要性が浮かびました。

質問 10 の討議時間 (75 分) については、8 名から「適切」の声がありました。前回の実施結果 (適切な討議時間としては 90 ~ 120 分との回答が 5 名) より短い理由としては、参加者数の都合で 1 グループあたりの人数が今回 1 人減となったことも影響しているものと思われます。

(3) 報酬

質問 11「報酬についてご意見をお聞かせくだ

さい。また、その理由は？」に対し、4 名が「支払うべき」、2 名は「不要」と回答しました。支払うべき理由として「長時間かつ難題」「時間を拘束される」との意見がありました。

金額については「適切」が 4 名、「多い」が 2 名、「少ない」1 名となりました。「多すぎる」との回答に対する「適切額は？」の質問では、3,000 円、10,000 円に各 1 名でした。

(4) 案内状の送付について

質問 16「市民討議会における無作為抽出に対して住民基本台帳を閲覧することに対しどう思われますか？」の質問には、「妥当」(7 名)「使用すべきでない」(2 名)となりました。台帳の利用には運営実績を重ね認知度・信頼性を高め、行政との協働を高めていく必要があります。

また、直接ポスティングによる投函と住宅地図を利用した郵送による送付の比較では、郵送の方が「信用できる」(7 名)という結果が得られました。

(5) 今後のテーマについて

質問 20「今後取り上げてほしいテーマはありますか？」には「市政」が 5 名と最も多く、「交通」(4 名)、「環境」「防災・治安」(3 名)、「経済」「教育」「保健・福祉」(2 名)が続きました。

(6) 参加動機について

質問 4「家族から参加者当人が選ばれた理由は？」では「テーマに興味」「他の人の意見を聞きたい」などが挙げられました。

また質問 22「市主催のフォーラムや討論会に参加したことはありますか？」では「ある」が 2 名、「ない」が 7 名でした。

(7) その他意見・要望、参加の感想

今後の継続を希望する声が 3 名、「次回以降も

傍聴等で参加したい」「立川市における市民参加にも取り入れてほしい」という積極的な声がありました。また感想として、多くの参加者から「有意義だった」「勉強になった」という多くの回答が寄せられました。また「議論した過程が大切」との声もありました。

実施後の評価と課題

(1) 事前のPRについて

今回ポスティングとPR開始が同タイミングとなり、事前に市民討議会の名称・内容ともほとんど目にする事もないまま、抽出世帯の各戸に案内が届く形となりました。市民討議会に対する認知度が低い現状では、事前の知識がない状態での案内は唐突な印象を与えかねません。開催までに少しでも多くの市民への周知をはかる意味からも、少なくとも開催約2ヶ月前からの事前告知、1ヶ月前の案内状送付というように一定の期間を設ける必要があると思われます。

公館へのチラシ設置について、討議会終了後に残数確認を行ったところ、満足のいく効果は認められませんでした。ポスターなど他の手段との効果比較も含め、今後の事業開催においては再考を要します。

あわせて、今回は社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩にご協力をお願いし、事務局（AGORA 立川）へのチラシ配置を行いました。開催当日・事前PRが大学の後期試験・冬休みの時期と重なったこともあり、結果として多摩地域の学生の傍聴はありませんでした。今後も政策系の学生に事業・制度の紹介を進める上で、今後の課題として残りました。

(2) 無作為抽出について

前回8月の開催において500世帯へのポスティングに対し12名の参加があったことから、今回も500地番抽出と15名の参加募集を行いました。1ヶ月前の第1次ポスティングでは参加希望者はわずか3名にとどまりました。このため立川駅に近い富士見・柴崎・錦・羽衣・曙・

高松の6町を対象とした700世帯の追加抽出・ポスティングを実施し、最終的に1200世帯の投函に対して11名より参加の回答をいただき、今回の開催にこぎつけました。

前回に比べて参加数が伸び悩んだ理由として推測されることとしては、①テーマへの関心度②日程の問題などが考えられます。

①については、今回取り上げたテーマが市議会のように地域・市民全体に普遍的な内容ではなく、「デッキ演奏」という市内の特定の場所で起きている事象であったことから、地域、駅の利用率、世代などにより市民の関心に温度差があった、また②については今回日曜日の開催であり、かつ「10時～17時」という設定が実質的に丸一日の時間的拘束となることなどが敬遠されたのではないかと考えられます。

また、前回の開催結果にも言えることですが、参加者の年齢層が比較的高い理由としては、20代においては地域の問題そのものに総じて関心が低いこと、30～40代は家庭の事情、特に母親は子どもを家庭に残して参加することが困難であることなども、理由として考えられます。また、前回、今回と実施した「〇町〇丁目〇番〇号」を基準とした単純な抽出手法では、戸建1軒とマンション等集合住宅1棟の抽出される確率が等しいため、集合住宅の個々の世帯が抽出される確率はその戸数で除した値となります。このため、集合住宅に住んでいる比率の高い20～30歳代の世帯が選ばれにくいことも原因として考えられました。この点については今後抽出システムの改善等で解決したいと考えています。

(2) 参加募集数・実施回数・日程について

昨年8月の討議では午前午後のテーマについて、それぞれ3～4個の小設問を用意しましたが、今回は午前・午後それぞれ1テーマとしました。

プラーヌクスツェレでは25人を基礎単位に、平日を含めた4～7日の開催が原則であり、また1テーマに対して複数開催を義務づけるなど、一定の参加者数により、集約された意見が民

意を反映しているという「正当性の確保」を意識した運営がされています。また、市民の理解や企業の協力もあり、公に認められた制度として確立しています。

一方、わが国においては市民討議会というシステムへの認知度がまだまだ低く、複数日の開催は参加者確保の上で、ネックとなる可能性が高いと考えます。将来の複数開催、人数確保も念頭に置きながら、当面は市民へのシステムの紹介と認知を優先したいと考えています。

(3) 予算上の問題について

参加者への謝礼（日当）、募集・参加の返信における通信費を軽減するため、参加申し込みの返信用には受取人払郵便（1通70円）を利用しました。これにより1200世帯への投函においても数万円の経費節減ができました。

(4) 報酬について

アンケート結果の通り、1日の開催に対して今回の金額は「適切」が約半数を占めました。

一部の参加者の一部からは「無償で開催とすべき」とのご意見もありますが、参加者の皆さんにも意見に対する責任をもってもらうという点で、手当を充当すべきと考えておます。金額については前回開催時のアンケート結果も含め、「午前午後の開催で4,000～5,000円が妥当」という意見が多く挙げられました。

(5) 会場について

今回の討議会も昨年8月同様和室で開催し、引き続き和室スタイルの反応を検討しました。

当日の様子からは、会議室でのテーブル・椅子によるスタイルに比べて、冒頭からざっくばらんに思ったことを話しやすい雰囲気作りに作用した可能性も考えられます。

しかし前回に続き「和室より洋室の椅子席の方が楽」という一部の声もあることから、今後洋室での開催も実施し、回数を重ねながら参加者の意向を伺っていきたいと思います。

傍聴室については、室内の雰囲気をも二タ越しに伝えられる一方で、具体的な討議の内容までは聞くことができませんでした。より多くの方に討議の様子を見て頂き関心を寄せてもらうという面で、むしろ傍聴者を会場に入れるべきという意見もありますが、他方で無条件に多数の傍聴者を討議会場に入れることは、参加者にとって話をしにくくなる状況も当然考えられます。討議会場の規模なども勘案し、例えば運営スタッフを除いた最大傍聴数をあらかじめ伝え、その範囲にお入れ入替制をとるなど、今後の検討課題として残りました。

(7) 情報提供について

無作為抽出と並び、「偏りのない情報の提供」が提言に対する客観性、信頼性を担保する上での前提となるため、今回の2名の提供者には、事前打ち合わせの段階において、数値等から得られる客観的な情報を参加者に提供するように依頼しました。結果、今回の開催においても参加者からおむね良好な評価を得ることができました。

前回、今回とテーマの設定、情報提供者の選定は、立川青年会議所にて行いましたが、今後の課題として「wellvoiceたちかわ市民討議会」を地域に根付かせよりよいものに形作る上で、テーマ選定の公募や、情報提供者選定における他団体との協働など、今後の運営においてより中立性を高めるための施策が必要と考えられます。

(8) グループ討議の形態について

ドイツのプラーヌクスツェレにならい、討議を通したファシリテータはおかず、司会進行担当が全体のタイムキーパーを兼ね、その他室内の運営スタッフが事務的な取り次ぎや補足のみを行うスタイルをとりました。

スタッフをグループ討議の時間中配置する必要もなく、積極的に討議いただくことができましたが、事前にファシリテータ役を準備しておき、討議進行に問題が見受けられた時などにいつでも対応できるよう、運営側も一定のスキルを身につけ

るなどの必要もあると考えます。

まとめ

「wellvoice たちかわ市民討議会」は ①地域への市民の社会参画を促進する②地域が抱える問題を解決へと導く、この2つの役割を担う手法として有効なツールとなりうると考えております。

一定のスパンで継続した開催を行うことにより市民に対する認知度を高めること、そして得られた結果を単なる提言に留まらず、いかに地域に反映させていくか、両者の相乗効果がこの新たな試みの定着のカギであると考えられることから、今後テーマや情報提供者の選定等において、行政をはじめ地域の諸団体・NPO など、さまざまな形で「まちづくり」に取り組む人々との協働を進めていく必要性を感じました。

今後の市民討議会の開催については、立川市、立川市まちづくり政策協働研究会との協力のもと、来る5月27日(日)に「地域のコミュニティづくり」をテーマに、立川市女性総合センターアームにて開催を予定しているほか、2007年内に合計3ないし4回の開催を検討しております。

また、社団法人東京青年会議所では6月から10月にかけて、都内4区(千代田・墨田・葛飾・江東)での開催を計画しているほか、社団法人町田青年会議所でも年内開催を目指し行政と協議を進めており、徐々にではありますがこの新しいしくみを広げていこうという機運が高まりつつあります。

立川青年会議所としても地域に根ざしたツールとして、今後さらなる進化をめざし継続的な検討を重ねていきたいと思っております。

感想 情報提供者として参加させていただいて

立川市企画政策課 主査 浅見 知明氏

このたびは、市民討議会（以下「討議会」）の開催にいたるまでの貴所の並々ならぬご尽力に敬意を表します。討議会においては、事務局の進行政管理や役割がスムーズに機能していたこと、また、初顔合わせの参加者の方々が活発な議論を交わしていたことに大変感銘を受けました。

私は、平成 18 年 8 月 5 日に実施された討議会（テーマ「市議会と市民の関わり」）に引き続き、今回も市担当者として参加させていただきました。ただし、前回と異なる点は、傍聴者ではなく情報提供者の立場であったことです。今回のテーマは「駅前デッキと路上演奏・パフォーマンス」。情報提供の内容は、道路交通法など法的な規制、市のまちづくりにおける開発計画、文化・芸術のまちづくりの指針、国都、他市の動向や市民団体の活動報告にいたるまで、多岐にわたりました。駅前デッキを取り巻く現状と諸課題について、市が把握している情報をあますところなく提供しよう努めました。

私自身、前回 8 月の討議会や三鷹市で開催された『みたかまちづくりディスカッション 2006』を傍聴させていただくなかで、「市の職員は、当然、公平・公正な立場から情報提供者の一員であるべきだ」と主張したものの、果たして今回、その任務をまっとうできたかは正直自信ありません。短い時間のなか、皆様に十分理解していただけただろうか、資料が多くてかえって混乱させてしまったのではないかと、誘導的な説明になっていなかったかなど、今なお自問自答する日々です。いようなれば、本テーマである「駅前デッキ」ならぬ「市民討議会」でのパフォーマンスの評価が問われたといえるでしょう。ぜひ、率直なご感想をお寄せください。

ここで、討議を振り返っての感想を申し上げます。一言で申しますと、「皆様、本当に立川が好

きなんだなあ」ということです。それは、「立川駅前デッキを路上演奏のメッカにする」が最も高い支持を集めたことからわかります。ひと昔前であれば、「法律で規制されている」「前例がないから無理だろう」といった具合にあきらめていたことも、「わがまちがハッピーになるんだからぜひやろう！」という発想に変わってきたのではないのでしょうか。確かに、昨今の構造改革特区や地域再生計画、国土交通省の「道を活用した地域活動の円滑のためのガイドライン」の例をみても、着実に規制緩和の動きが進んでいるようです。まさに、“市民力”が既存の枠組みをとりはらい、新たなまちの活性化を後押ししているといえるでしょう。ぜひとも、広く民意を集める研究や取り組みを進めていっていただきたいと思います。

さて、本市では、平成 17 年度を初年度とする第 2 次基本計画の基本テーマを「市民力と連携のまちづくり」と定め、参加と協働によるまちづくりを推進しています。今年の 2 月 19 日には、市民、企業、大学等と市が連携して地域課題の解決に向けた研究を行っている「まちづくり政策協働研究会」の中間報告会が開催されました。そこでは、市民研究員が市民を前に研究成果の報告を行うというスタイルを実現しました。このような市民主導・市民主体の手法は本討議会においても十分活用できるのではないかと感じたところです。

私は、前討議会の報告書に寄せた感想のなかで、いかにして市民に身近なテーマを拾いだせるか主催側の企画センスが問われると述べました。今回、情報提供者として参加させていただき、主催者から要請があれば本討議会の企画段階においても市は積極的に協力していくべきだとの思いを新たにしました。

今後の貴所の益々のご健勝をお祈りして私からの感想とさせていただきます。 以上

謝辞

ご参加を頂いた方より「初めての人と共通のテーマで意見交換ができ、日常と違った経験ができた」というお言葉を頂くことができました。この様にお感じになられた方々の期待を無駄にすることなく、市民の社会参画を促す手法として、この市民討議会の必要性・有効性をさらに多くの皆様にご理解頂けるよう、今後の継続した開催を通して検討を進めていきたいと考えております。今後とも青年会議所運動に対し皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

今回の wellvoice たちかわ市民討議会に、ご理解ならびにご参加いただきました市民の皆様、企画段階より、多くのご助言・ご協力をいただいた立川市企画政策課小町邦彦課長ならびに浅見知明主査、またご多忙の中、資料のご提供をいただきました立川警察署交通課小田切義貴課長、早稲田大学理工学部浅野光行教授、立川市道路課・都市づくり課・文化振興課の皆様にはあらためて厚く御礼を申し上げます。

参考資料

地域社会研究 11 号（別府大学地域社会研究センター）2005 年

地域社会研究 12 号（別府大学地域社会研究センター）2006 年

市民討議会報告（社団法人東京青年会議所千代田区委員会編）2005 年

「面積算定に着目したペDESTリアンデッキの研究」中尾成政、浅野光行、社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 No.39-3 pp.493-498（2004 年）

資料編

■参加者アンケート結果

※回答に関しては一言一句そのまま掲載させていただきます。

※無記名による回答です。(当日参加者 10 名のうち途中退席を除く 9 名による)

1.a) これまでに「wellvoice たちかわ市民討議会」をご存じでしたか？

- 1 知っていた 1 票
- 2 知らなかった 8 票

b) a) で「はい」とお答えの方におたずねします。どこでお知りになりましたか？

- 1 チラシ 0 票
- 2 ホームページ 0 票
- 3 駅前ビジョンの CM 0 票
- 4 新聞記事 1 票
- 5 知人から 0 票
- 6 その他 回答無し

2. 「市民討議会参加のお誘い」が届いたときどのようにお感じになりましたか？

- 1 厄介だなと思った。1 票
- 2 胡散臭いと思った。1 票
- 3 まじめな案内だと思った。7 票
- 4 その他 回答無し

3. 市民討議会の説明文はご理解いただけましたか？

- 1 イメージはつかめた。6 票
- 2 よくわかった。3 票
- 3 よくわからなかった。0 票
- 4 その他 回答無し

4. ご案内が届いたあとに関するご質問です。家族の中からあなたが、市民討議会に参加される事になった理由をお聞かせください。

・妻が興味を示していたが、当日予定があったため私が来た。テーマには興味がなかったが、この会自体に興味があったので出席した。

- ・興味のある議題だったから。
- ・多くの方の意見を知りたかった。
- ・テーマに興味があったので自ら参加を決めた。
- ・時間の都合、主人はあまり興味がないようで。
- ・大学生がいるので若い人の意見を是非聞きたかったのですが、当日都合が悪いため私が参加させていただきました。次回はぜひ子どもたちに参加させて、これからの立川をつくってってもらいたいです。参加できてとても有意義でした。
- ・住民として市の発展に役立ちたいと考えている。
- ・宛名が私だったから（家族の中から誰かを選べという手紙では無かったように思うので…設問の趣旨がわかりません）

5. 実際に「市民討議会」に参加されてみていかがでしたか？（複数回答可）

- 1 楽しかった 3 票
- 2 勉強になった 8 票
- 3 新しい発見があった 3 票
- 4 興味がわいた 4 票
- 5 つまらなかった 0 票
- 6 難しくてよくわからなかった 0 票
- 7 想像とは違った 0 票
- 8 その他

・他の人と知り合う機会をいただいたと思っている。

6. 市民討議会に参加される前と後では何か変わりましたか？

- ・立川に対する愛着が増した。(市民となって2年半ですので市民の一人となれたかなあとうれしい思いです)
- ・立川市民として再確認し、少しでも立川市が良くなるよう願う。
- ・多数の意見が参考になった。
- ・様々な意見の中で共通する点も多く、意見を集約するには良いやり方と思う。

- ・特に変わらないが、意見をいう場所があるのはいいことと思った。
- ・立川市政に近づけたように感じます。もっと身近に立川市政を感じたいです。
- ・特に変わりありませんが、路上演奏屋パフォーマンスについての理解がある方々ばかりだった。

7. 今回の市民討議会のテーマ設定についてはいかがでしたか？

- 1 適切であったと思う 6票
- 2 興味がないのでピンと来ない。 0票
- 3 難しすぎる。 0票
- 4 市民がやるべき事ではない。0票
- 5 その他
 - ・テーマ1とテーマ2の区別がうまくつかめなかった。
 - ・ひとつひとつしぼってテーマを決めるので、いいのではないか
 - ・駅前デッキ以前に総合的な住環境について討議すべきだと思う。

8. 今後「市民討議会参加のご案内」が届いたらどうしますか？

- 1 日程が合えばぜひ参加したい 5票
- 2 参加しない 0票
- 3 テーマによっては参加したい 4票
- 4 その他 回答無し

9. 情報提供(者)についてはいかがでしたか？(複数回答可)

- 1 説明がわかりやすく参考になった 6票
- 2 説明がわかりにくく疑問が解消されなかった 0票
- 3 情報に偏りがあった 0票
- 4 一方的で参考にならなかった 0票
- 5 説明が長い 0票
- 6 説明が短い 1票
- 7 その他
 - ・資料が多いが内容をうまく把握できないので、

うまく討議に活かせなかった。

- ・説明は短時間なので、後でゆっくり資料を読みたい。
- ・資料が多いので事前に配布して読んでおきたかった。
- ・もう少しわかりやすく短くても良い。
- ・普通だと思います。

10.a) 討議の時間(1コマ)についてはいかがでしたか？

- 1 ちょうどよい 8票
- 2 短くて意見がまとまらなかった 0票
- 3 長くて疲れた 0票
- 4 その他
 - ・午前中は良かったが、午後はテーマが重複して疲れた。
 - ・2コマ目は長すぎた。

b) 前問で1「ちょうどよい」以外にお答えの方におたずねします。適切と思われる時間は何分ですか？

- ・回答無し

11. 討議の小グループのメンバー数や雰囲気はいかがでしたか？(複数回答可)

- 1 ちょうど良い 4票
- 2 少ない 5票
- 3 多すぎる 0票
- 4 和やかで話しやすい 5票
- 5 参考になる意見が多かった 3票
- 6 自分の主張ばかりで議論しなかった 0票
- 7 話しづらく重い雰囲気だった 0票
- 8 その他 回答無し

12. 討議の進め方はいかがでしたか？

- 1 スムーズで良かった。3票
- 2 まあまあ 4票
- 3 わかりにくい。改善すべき 0票
- 4 その他
 - ・適切かどうかはわからないが、討議メンバー以外の方が書記のようなことをしていただけると

助かる。

- ・カメラが多いと思った。

11. 報酬についてご意見をお聞かせください。

また、その理由は？

1 支払うべき。4票

- ・長時間かつ難題。
- ・時間を拘束されるから。

2 いらぬ。2票

- ・あくまでもボランティアで。うーん、いろいろな人から意見をいただくには報酬もあった方が良くもしいない。少額にするとか、3,000円商品券など。車代くらい。
- ・自分の意志で参加しているため。

3 その他 3票

- ・少しは頂いても良いかなと思った。
- ・どちらでもよい。
- ・わかりません。

14. a) 今回1日の開催に対する手当の金額についてはいかがでしょうか？

1 適切 4票

2 多いと思う 2票

3 少ないと思う 1票

その他：よくわかりません。／わかりません。

b) 前問 a) で1「適切」以外にお答えの方におたずねします。1日の開催に対して適切と考えられる額はいくらですか？

3,000円 1票

10,000円 1票

その他：金額より継続させてください。

15. 市民討議会の討議中は公開にすべきですか？それとも非公開にするべきですか？またその理由は？

1 公開にするべき。6票

- ・広く市民の方に理解を得られるから。
- ・多くの意見を聞くためにも、たくさんの方に意見を求めたいから。
- ・市の政策に役立ててほしい。

2 非公開にするべき 2票

- ・テーマによっては圧力がかかるおそれもあるので。自由な意見を求めるには非公開にすべきで。他の方法で透明性をはかるべき。
- ・他人の眼を気にせず、初対面の方と和やかに話し合えるから。公開であれば参加しないと思う

16. 案内状の送付に関するご質問です。

a) 今回の無作為抽出は市内地番からランダムに取り出し、直接ポスティングによりお届けしました。市民討議会のような目的で、住民基本台帳を用いて無作為抽出を行うことに関してどう思われますか？

1 妥当な目的だと思う 7票

2 住民基本台帳は使用すべきでない 2票

b) 前問で2「使用すべきでない」とお答えの方におたずねします。その理由をお聞かせください。

- ・プライバシーの点で

c) ポスティング以外の送付手段として、無作為抽出と住宅地図の併用による選り出した住所・ご氏名への郵送について、現在検討しております。この点についてはどのように思いますか？

1 ポスティングに比べ信用できる 7票

2 ポスティングに比べ信用できない 0票

3 なんともいえない 2票

4 その他 回答無し

15. 「wellvoice たちかわ市民討議会」という名称についてはどのように思われますか？

- ・適切である。
- ・良いと思う。
- ・討議が少々いかつく思うので、もう少し気軽なネーミングないでしょうか。
- ・よくわからない。
- ・「討論会」という表現が少し固い気がする。「意見交換会」とか「話し合い」の方が良いと思い

ます。

- ・ちょっとかたいと思いますが他に言い換えられるのかわからない。
- ・横文字（英文字）ではなく、もっとわかりやすい名称にすべきである。
- ・今回は「討議」というイメージとは実際は違った雰囲気であったので、「懇話会」とか「懇談会」とか「意見交換会」でもよいかと思います。

16. 「情報提供者」という名称についてはどのように思われますか？

- ・適切である。
- ・かたいと思うが、意味としてはわかりやすい。
- ・良いと思う。
- ・ピンとこない。
- ・内容から合っているので良いと思います。
- ・かたい感じ。
- ・情報提供…スパイのイメージ。
- ・特に問題ないように思います。

19. 「討議」という名称についてはどのように思われますか？

- ・適切だがこの課題をどう生かすかが大切。
- ・戦いや争いを連想させる。
- ・討議が少々いかつく思うので、もう少し気軽なネーミングないでしょうか。
- ・よい。
- ・固い感じがする。
- ・討論の方が良い。
- ・実際の内容は「討議」というイメージとはかけ離れて、「懇話」「意見交換」という感じでしたので、もう少し柔らかい名称の方が良いかもしれません。

20. 今後「市民討議会」で取り上げてほしいテーマはありますか？以下より3つ以内でお答えください。また、具体的なテーマがございましたらお書きください。

1 市政 5票

- ・議会報で回答者名まで入れて欲しい

- ・ゴミの減量など
- ・街作り、道路行政
- ・駅前だけでなくまだ活性化されていない場所など

2 都政 0票

3 国政 0票

4 経済 2票

- ・税金

- ・駅周辺の商店街…特徴がない街並みになっている

5 労働 0票

6 教育 2票

- ・大学誘致

- ・ゆとり教育の良し悪し など

7 保健・福祉 2票

- ・保険証のカード化を促進願いたい

- ・健康に関すること、未病

8 環境 3票

- ・地球温暖化

- ・公園の整備…昭和記念公園以外は小さな公園で利用されていない

- ・緑の多い環境、自然環境の配慮

9 交通 4票

- ・電車通過後の遮断機の上りタイムがJR系10秒、私鉄は3秒。これを改善してほしい。現在1日の渋滞損害は東京10億、全国で100億。踏切改善で30%削減できる

- ・渋滞

- ・駅前の渋滞緩和…特に休日

10 防災・治安 3票

- ・災害時、自分の身近な防災 など

11 科学・技術 0票

12 その他

- ・文化・芸術・スポーツ

21. 「青年会議所」と言う公益法人をご存じでしたか？また、その印象や活動イメージをお書きください。

1 知っていた 7票

2 知らない 2票

- ・活動内容は理解していなかった
- ・商工会議所との区別がつかない内容かと思っている。
- ・知ってはいたが、内容は分からず。自分たちの利益の為の集合に感じていた。
- ・日常あまり知る機会がない。
- ・若い人の視点から見ている。
- ・福祉活動を中心の良いイメージである
- ・商工会の次の時代の各店の社長、跡取り候補の会というイメージです。

22.a) これまで市やNPOが主催する討論会やフォーラムなどに参加したことがありますか？

- 1 ある 2票
- 2 ない 7票

b) 1「ある」と答えた方に質問します。どういう議題の市民会議でしたか？

- ・市政モニター員

c) 2「ない」と答えた方に質問します。なぜ今日の市民討議会に出席されましたか？

- ・無作為というめったにない機会だと思ったから。
- ・今まで仕事や両親の介護で時間がなかった。
- ・なんとなく。
- ・テーマに興味がかかれた。
- ・立川にずっと住み続けるつもりなので、意見が言えるときは参加しようと思った。
- ・討議に対してこれという意見を持っていなかったのですが、ここの場所に来て自分もいろいろ考えをもっていることの発見ができて良かったです。
- ・案内があったから。
- ・テーマに関心があったからです。

23. 今後、立川青年会議所からの事業ご案内を希望されますか？

a. 「wellvoice たちかわ市民討議会」に関する開催・傍聴のご案内

- 1 希望する 6票
- 2 希望しない 2票
- その他：内容による 1票
- b. その他、立川青年会議所が主催・共催する事業のご案内
- 1 希望する 8票
- 2 希望しない 0票
- その他：内容による 1票

24. その他、ご意見やご要望がございましたらお聞かせください。

- ・お世話になりました。今後共益々の御活躍をお祈り致します。有り難うございました。
- ・今日は1日ありがとうございました。青年会議所のことが、なんとなく、最後まで、どういう活動するところなのかつかめませんでした。貴重な体験をさせていただきました。
- ・もっとたくさんのひとが参加し、色々な意見が出るそんな会であってほしい。
- ・駐車場がちゃんと有る場所で行ってほしい（今回有料）。
- ・運営はスムーズで気配りをいただきましたが、和室より洋室の椅子席の方が楽でした。
- ・住んでいて心安らく街であってほしい。
- ・参加させていただきありがとうございました。
- ・朝から夕方まででは時間が長い。できれば3～4時間程度の方がよい。
- ・大変良い経験をさせていただきました。関係者の皆様、誠にありがとうございました。
- ・初めての人と共通のテーマで意見交換でき、日常と違った経験ができ有益でした。
- ・本日の皆様の意見が市政や市の発展に役立つことを期待します。

■無作為地点抽出基礎資料

町名	世帯数	人口			番地	割当番号
		男	女	計		
富士見町 1 丁目	1,838	1,880	1,993	3,873	1 ~ 36	1 ~ 1838
富士見町 2 丁目	1,485	1,472	1,502	2,974	1 ~ 36	1839 ~ 3323
富士見町 3 丁目	392	465	404	869	1 ~ 21	3324 ~ 3715
富士見町 4 丁目	831	926	860	1,786	1 ~ 23	3716 ~ 4546
富士見町 5 丁目	655	726	719	1,445	1 ~ 27	4547 ~ 5201
富士見町 6 丁目	2,497	2,679	2,738	5,417	1 ~ 72	5202 ~ 7698
富士見町 7 丁目	1,322	1,651	1,627	3,278	1 ~ 45	7699 ~ 9020
紫崎町 1 丁目	1,021	1,071	1,070	2,141	1 ~ 23	9021 ~ 10041
紫崎町 2 丁目	1,203	1,165	1,218	2,383	1 ~ 26	10042 ~ 11244
紫崎町 3 丁目	774	714	737	1,451	1 ~ 18	11245 ~ 12018
紫崎町 4 丁目	968	1,011	1,096	2,107	1 ~ 23	12019 ~ 12986
紫崎町 5 丁目	383	446	445	891	1 ~ 21	12987 ~ 13369
紫崎町 6 丁目	223	283	293	576	1 ~ 23	13370 ~ 13592
錦町 1 丁目	2,308	2,170	1,893	4,063	1 ~ 24	13593 ~ 15900
錦町 2 丁目	1,248	1,224	1,214	2,438	1 ~ 13	15901 ~ 17148
錦町 3 丁目	891	840	930	1,770	1 ~ 12	17149 ~ 18039
錦町 4 丁目	563	558	567	1,125	1 ~ 12	18040 ~ 18602
錦町 5 丁目	920	1,104	1,041	2,145	1 ~ 20	18603 ~ 19522
錦町 6 丁目	2,020	1,940	2,013	3,953	1 ~ 29	19523 ~ 21542
羽衣町 1 丁目	1,898	1,583	1,966	3,549	1 ~ 25	21543 ~ 23440
羽衣町 2 丁目	2,231	2,273	2,357	4,630	1 ~ 70	23441 ~ 25671
羽衣町 3 丁目	922	880	979	1,859	1 ~ 29	25672 ~ 26593
曙町 1 丁目	1,550	1,403	1,286	2,689	1 ~ 37	26594 ~ 28143
曙町 2 丁目	1,084	1,078	1,152	2,230	1 ~ 42	28144 ~ 29227
曙町 3 丁目	2,352	2,383	2,292	4,675	1 ~ 49	29228 ~ 31579
高松町 1 丁目	1,328	1,374	1,128	2,502	1 ~ 31,100,300,384,3664,3665	31580 ~ 32907
高松町 2 丁目	2,229	2,114	1,955	4,069	1 ~ 39	32908 ~ 35136
高松町 3 丁目	1,563	1,463	1,415	2,878	1 ~ 32	35137 ~ 36699
緑町	1,260	1,311	974	2,285	3173,3233,3256,3280,3567	36700 ~ 37959
栄町 1 丁目	837	948	778	1,726	1 ~ 37,3895	37960 ~ 38796
栄町 2 丁目	754	964	1,002	1,966	1 ~ 69	38797 ~ 39550
栄町 3 丁目	512	577	614	1,191	1 ~ 63	39551 ~ 40062
栄町 4 丁目	1,129	1,213	1,124	2,337	1 ~ 47	40063 ~ 41191
栄町 5 丁目	1,556	1,736	1,804	3,540	1 ~ 63	41192 ~ 42747
栄町 6 丁目	648	750	755	1,505	1 ~ 26	42748 ~ 43395
若葉町 1 丁目	2,210	2,568	2,752	5,320	1 ~ 32	43396 ~ 45605
若葉町 2 丁目	727	960	997	1,957	1 ~ 58	45606 ~ 46332
若葉町 3 丁目	679	881	870	1,751	1 ~ 76	46333 ~ 47011
若葉町 4 丁目	1,661	1,675	1,755	3,430	1 ~ 26	47012 ~ 48672
幸町 1 丁目	453	559	535	1,094	1 ~ 44	48673 ~ 49125
幸町 2 丁目	1,288	1,509	1,591	3,100	1 ~ 58	49126 ~ 50413
幸町 3 丁目	514	589	565	1,154	1 ~ 34	50414 ~ 50927
幸町 4 丁目	1,640	1,798	1,758	3,556	1 ~ 66,82	50928 ~ 52567
幸町 5 丁目	1,238	1,476	1,455	2,931	1 ~ 112	52568 ~ 53805
幸町 6 丁目	563	638	632	1,270	1 ~ 37,169	53806 ~ 54368
柏町 1 丁目	955	1,044	1,136	2,180	1 ~ 37	54369 ~ 55323
柏町 2 丁目	378	458	469	927	1 ~ 50	55324 ~ 55701
柏町 3 丁目	646	733	677	1,410	1 ~ 60	55702 ~ 56347
柏町 4 丁目	1,792	1,884	2,026	3,910	1 ~ 79	56348 ~ 58139
柏町 5 丁目	123	0	123	123	1 ~ 6	58140 ~ 58262
泉町	332	475	511	986	1,13,108,789,830,841,899,935,1078,1156,3567	58263 ~ 58594
砂川町 1 丁目	385	514	527	1,041	1 ~ 67	58595 ~ 58979
砂川町 2 丁目	646	888	887	1,775	1 ~ 71	58980 ~ 59625
砂川町 3 丁目	499	632	539	1,171	1 ~ 47	59626 ~ 60124
砂川町 4 丁目	885	1,172	1,117	2,289	1 ~ 70,72	60125 ~ 61009
砂川町 5 丁目	309	361	355	716	1 ~ 54	61010 ~ 61318
砂川町 6 丁目	713	867	881	1,748	1 ~ 49	61319 ~ 62031
砂川町 7 丁目	1,085	1,403	1,321	2,724	1 ~ 60	62032 ~ 63116
砂川町 8 丁目	1,452	1,849	1,705	3,554	1 ~ 91	63117 ~ 64568
上砂町 1 丁目	1,366	1,460	1,785	3,245	1 ~ 14	64569 ~ 65934
上砂町 2 丁目	292	393	371	764	1 ~ 45	65935 ~ 66226
上砂町 3 丁目	514	682	665	1,347	1 ~ 61	66227 ~ 66740
上砂町 4 丁目	329	397	417	814	1 ~ 56	66741 ~ 67069
上砂町 5 丁目	1,802	2,141	2,123	4,264	1 ~ 85	67070 ~ 68871
上砂町 6 丁目	0	0	0	0	1 ~ 12	
上砂町 7 丁目	0	0	0	0	1 ~ 12	
一番町 1 丁目	893	1,212	1,105	2,317	1 ~ 61	68872 ~ 69764
一番町 2 丁目	764	941	918	1,859	1 ~ 49	69765 ~ 70528
一番町 3 丁目	316	409	421	830	1 ~ 37	70529 ~ 70844
一番町 4 丁目	820	994	965	1,959	1 ~ 73	70845 ~ 71664
一番町 5 丁目	1,398	1,389	1,503	2,892	1 ~ 8	71665 ~ 73062
一番町 6 丁目	1,315	1,814	1,834	3,648	1 ~ 29	73063 ~ 74377
西砂町 1 丁目	340	452	412	864	1 ~ 80	74378 ~ 74717
西砂町 2 丁目	674	889	909	1,798	1 ~ 64	74718 ~ 75391
西砂町 3 丁目	305	431	396	827	1 ~ 76	75392 ~ 75696
西砂町 4 丁目	182	273	265	538	1 ~ 90	75697 ~ 75878
西砂町 5 丁目	876	1,141	1,129	2,270	1 ~ 71	75879 ~ 76754
西砂町 6 丁目	384	546	495	1,041	1 ~ 76	76755 ~ 77138
西砂町 7 丁目	32	15	43	58	1 ~ 3	77139 ~ 77170
合 計	77,170	84,887	84,881	169,768		

立川市発行「町別世帯数と男女別人口」（平成 18 年 1 月 1 日現在）による

文化振興が「順法」か

無作為に選ばれた市民が、まちの課題について意見を交わす「市民討論会」が四日、立川市女性総合センター・アームで開かれる。立川青年会議所の主催で、昨年に続き二回目。今回は「駅前デッキの路上演奏・パフォーマンス」をテーマに議論する。

「駅前デッキでの路上演奏」

通行障害などの問題も。また、本来は警察や市の許可が必要だが、許可の取得は難しく、無許可のまま行われているのが実情という。「文化振興」と「順法」の間で描れる課題の現状と未来について、参加者が議論する。

あす立川で市民討論会

無作為抽出の市民15人参加

のかわり」をテーマに討論した。参加者が同じ顔ぶれにならないよう無作為抽出するのが特徴。今回は無作為に選んだ市内五百世帯に案内状を配布、十八歳以上の人が参加を呼び掛け、十五人を募った。開催時間は午前十時～午後五時。傍聴無料。問い合わせは立川青年会議所「きょく・たしかわ委員会」の金子幹広委員長（090）（2007）86551へ。（服部展和）

デッキで演奏 是非は

立川駅前きょう市民討論会

立川青年会議所は4日、無作為に選ばれた市民による討論会を、立川市曙町の立川女性総合センターアームで開催する。討論のテーマは、JR立川駅前デッキの路上演奏とパフォーマンス。同会議所主催の「市民討論会」は今回で二回目。同会議所によると、立川駅前デッキでの楽器演奏は市や警察の許可が必要。行政や市民が納得する形で有効利用を模索

相模(株)アスキー

0092-21-1199

している。同会議所は1月上旬、無作為に選んだ市民へ500通の案内状をポストイंक。その中から応募した15人が討論に参加する。討論の結果は報告書にまとめ、市などに提出する。4日午前10時から、傍聴は自由。中学バスケット開幕

第36回多摩地区中学校バスケットボール大会（多摩地区中学校バスケットボール部連絡協議会主催、産経新聞社など後援）が3日、開幕した。今大会には男子187チーム、女子は過去最多の205チームの計392チームが参加。18日の準決勝、決勝に向けてトーナメント方式での熱い戦いが始まった。

第1日の3日は、稲城三中など3会場での女子の1回戦と2、3回戦の一部が行われた。第2日の

民が立つ

121
克服

自分から手を挙げる
ことまではしないが、東京・立川市の立川青年会議所（J.C.）が二月トにランダムに選ばれたメンバーの市民で意見を無視してはならない。そんなサイレントマジョリティーが、かわ市民討議会を開いた。テーマは「JR立川（沈黙する多数派）が、駅前デパートの路上演奏を聞いては差運んだだけでは出さずかけをつく、や周辺整備あり方、ない、立川J.C.が無難に選んで呼び掛けたに慣れない言葉も異なる男性七人、女性三人が「ブライヌクス」三、四人づつに分かれ、三つのテーブルを囲んで話し合った。話し合いの手法、話し合いの珍しくも見えないこの

提言
きっかけがあれば動き出す人はいる。多様な話し合いの場を設け、呼び掛け方を工夫しよう

多様な声引き出す試み

無作為抽出の応募者
を無作為抽出の応募者
は有償で二週間参加③
専門家に依頼するが状
況や意見を説明④本人は
どのグループに分か
れ、メンバーを入れ替
えし、公的な意見を形
なから議論の提案をま
め、打ち合に伝える。
「細胞」である小ケル
ープが議論、提案し、行
政などの「計画」に生か
す。無作為抽出で多様な
人たちの確固をつくり出し、実際に参加するのは、今や一般的だ。しかし、通の生活を営むみなさん、興味に「そ、こ、こ、普通でも10%程度、千二百人、世帯に呼び掛けた立川J.C.の試みは、参加者十人中、0.8%にとどまっか。立川J.C.常任理事の金子伸広さん36は新

「こう書いた。」「会社に勤め、家事をい、子どもを育て、学校に通い、趣味に「そ、こ、普通でも10%程度、千二百人、世帯に呼び掛けた立川J.C.の試みは、参加者十人中、0.8%にとどまっか。立川J.C.常任理事の金子伸広さん36は新

第1部 話し合う

②は「行きたくても口り口の段階」とみる。程などが分らない。それでも討議会メンバー、会員の松尾健治、端会議のようによろさん58は「選ばれたんだから行かなくとも思っこそ思いついて話せるのて、歯科医の小沢次郎「かも」と小沢さん。森さん36は「どんな意見があるのか興味がある」と、無作為抽出で届いたと、話し合う味を感じた。討議のアンケート。五人が「口程がきかずに参加したい」、四人が「テーマによっては参加したい」と答えた。二、三回には「参加したい」と答えた。五人が「口程がきかずに参加したい」、四人が「テーマによっては参加したい」と答えた。二、三回には「参加したい」と答えた。五人が「口程がきかずに参加したい」、四人が「テーマによっては参加したい」と答えた。

この連載へのご意見や情報、住民や地域、行政のあり方などへの疑問、提案をお寄せください。〒380-8546 長野市南県町687 信濃毎日新聞社報道部「民（たみ）」取材班（ファクス026-236-3196、メールtami@shinmai.co.jp）

ドイツ発祥 プラーヌクスツェレ

国内三鷹市とJ.C共催も

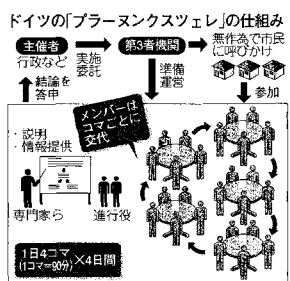


立川J.Cが無作為で選んだ参加対象者に呼び掛けて開いた「たちかわ市民討議会」=2月4日、立川市

プラーヌクスツェレから、都市計画・交通政策は類似手法を含め三百以上の実施例がある。

「面会参照」出での呼び掛けに応じた

（政治学）によると、ドコモ（二コマ九十分）で



計四日間討議、答申を七人から参加の承諾が得
まどめる。行政はそれをため、抽選で六十
政策に生かす。イラス人に絞らせた。実際に
ト、四日間費やせるのは、二日間の討議とそれを
休制度など社会参加を
れ五十人余が参加した。
市は謝礼（一人当たり
二日間計六千円）など総
費用百五十万円のうち、
無作為抽出のシステム開
発に三十万円を投じ、今
プラーヌクスツェレを
後も市民参加の手法と
モデルに、NPOなどで
活用する方針だ。

の課題問題をテーマに開
催。〇六年八月には立川
J.Cが市議会と市民のか
かり、東京都三鷹市と
三鷹J.Cが共催で子ども
の安心・安全について相
次いで実施した。いすれ
も一日間だった。
行政として初めて試み
た三鷹市の場合、四十五
人程度の参加を想定し、
住民基本台帳から無作為
抽出した二百人に参加を
呼び掛けたところ、八十
面もあるという。

参加深める討議の場

民が立つ

サイレントマジョリティーの参加を促す面注
目されるプラーヌクスツェレも、市民参加の
ツェレも、市民参加の
討議を意を見いだそう
とする手法の一つ、国内
ではほかに、ヨーロ
ッパの事例に倣った新た
な手法が試みられてい

欧州モデルに新手法も

科学技術評価や未来像 議論

抽出などで選ばれた市民、月、遠征治療をテーマ
が、課題を整理した上で、に開催。最近では北海道
異なる立場の複数の専門が、選任組織み換え作物
などを専門家に任せ、家に質疑、回答を踏まえ、の栽培を対象にした議論
市民考えることを狙い、市民同士が議論した上で、も開いた。
とすのは「コンセンサス」結論をまとめる。九〇年代に始まった
スズメ・一九八〇年代、国内では研究者らが中「シナリオ・ワークショップ」
に始まり、公募や無作為心になつて九八年一三三「トップ」は、主催者が「環
境重視」「利便性重視」法を採り入れて議論し
た。両手法の実践にかかわ
った若松征男、東京電機
共有できる未来像を想
大教授科学技術社会学
定、そこに至るために必
要な行動計画を話し合
い、まとめていく。期
待するのは難しい。た
千葉真が東京湾三番瀬
の埋め立てを中止し、保
全や再生を検討中だっ
た〇三年五月、研究者
グループが三番瀬の未来
を考えるため、この手

2007年4月1日 発行

編集 社団法人立川青年会議所

きづく・たちかわ委員会

委員長 金子 幹広

副委員長 小菅 岳

幹事 落合 成治

委員 青木 洋輔

猪股 健一

大石 博巳

大島 亮

岡部 雅彦

岡山 昭

小澤 清富

尾上 研児

織原寛一郎

北島 宏晃

酒井 大史

並木 益身

西岡 寛泰

肥後 和志

森川 亮

地区長 矢島 伸宏

副理事長 端 晶弘

発行 社団法人立川青年会議所

東京都立川市曙町 2-38-5

立川ビジネスセンタービル 12 階

TEL042-527-1001 FAX042-527-6600

www.tachikawajc.or.jp

©Tachikawa Junior Chamber inc., 2007

禁無断転載